

◆音楽Ⅰシラバスの例

教 科	芸術(音楽Ⅰ)	単位数	2 単位	学科・学年・コース・組	普通科1年1組～5組
使用教科書	高校生の音楽1(教育芸術社)				
副教材等	The Basics of Music 2訂版(教育芸術社)、ワークシート、学習プリント				

1 学習の到達目標

- ・幅広い音楽活動をするうえで必要となる基礎的な音楽の知識及び技能を高め、創意工夫を生かした音楽表現をするとともに、文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりなどを踏まえて、音楽について考える力を身に付けることを目標とします。
- ・日本や世界の音楽に触れることで、さまざまな価値観をもつ音楽に対して、積極的に関わり、音楽のよさを感じ取り、音楽の多様性について理解することを目標とします。
- ・音や音楽の美しさを感じ取る豊かな感性を育み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽文化に親しむことを目標とします。

2 授業の進め方

- ・基礎的な音楽の知識及び技能を高めるため、歌唱技能、楽器の演奏技能の他に、読譜やリズム読みなどの内容もあわせて指導します。
- ・歌唱や器楽の学習では、正しい音高で歌ったり、間違えず演奏したりすることも重要ですが、それだけにとどまらず、楽譜に書かれているさまざまな記号の意味や、曲に込められた作詞者・作曲者の思いを理解して、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫できるようにしましょう。そのためにグループ活動などを通して、曲にふさわしい表現のあり方を考えていきます。
- ・創作の学習では、自己のイメージを膨らませて音楽作品をつくりまします。完成したら、自分で演奏します。作品について説明(プレゼンテーション)したり意見交換したりします。
- ・鑑賞の学習では、西洋音楽、日本の伝統音楽や各地の民俗芸能、世界のさまざまな音楽、ポピュラー音楽などを扱います。
- ・必要に応じて、西洋音楽史や日本音楽史について説明します。音楽の歴史を知ることは、音楽表現のあり方や鑑賞作品を理解するために役立ちます。
- ・表現や鑑賞の理解を支えるために、楽典の指導を随時行います。

3 学習上の留意点

「表現」の領域では、日本語や外国語による歌唱、他の声部と協調して美しいハーモニーをつくり出す合唱、リズムのおもしろさを体験する器楽合奏、そして創作といった活動を中心に取り組みます。歌唱では、日本語と外国語の言語の特性を理解して基礎的な発声の技能を身に付け、表現力を伸ばしていきます。合唱や合奏では、他者と協調して演奏を楽しみましょう。楽典の学習は、覚えることがたくさんありますが、音楽の構造を理解したり、創作の学習に応用したりすることができます。

「鑑賞」の領域では、さまざまな時代、地域、ジャンルの音楽を聴きます。音楽の魅力を味わうだけでなく、その文化的・歴史的背景を理解してください。多様な音楽のあり方の理解を深めることによって、「音楽って何だろう?」という根源的な問いについて考えていきましょう。

4 年間学習計画 (学校やクラスの実態に応じて題材や教材を選択するとよい。)

月	題材名	教材名	学習活動	評価方法
4	正しい発声を身に付けて、豊かな響きで歌おう	校歌 翼をください 発声練習をしよう 練習曲第1番 魔法みたいに	・音色や強さを保ちながら息を吐き、息の流れを安定させて響かせて歌う ・歌詞の内容を深く捉え、曲想との関係を理解し、曲のもつ雰囲気や味わいを理解して歌う ・旋律の特徴を理解して、イメージに合った表現を工夫する	観察・聴取 学習プリント
	楽譜を正しく読めるようになろう	楽譜を読もう	・音の高さや長さ、休符の長さ、ト音譜表における音名を学び、楽譜を読んで歌ったり楽器で演奏したりする ・音楽用語や記号などに注意して、曲のイメージをもって表現を創意工夫する	観察・聴取 学習プリント
5 ・ 6	リズム・アンサンブルを楽しもう	クラッピング・カルテット第1番 音楽って何だろう?リズム	・拍や拍子、リズムについて学び、躍動感をもってリズム・パターンを表現する ・曲の構造を理解して演奏する ・手拍子や打楽器などを組み合わせて、リズム・パターンを豊かな音色で、生き生きと演奏する	観察・聴取
	4パートからなるリズム・アンサンブルをつくろう	リズム・アンサンブルをつくろう	・リズム・パターンやその組み合わせを考える ・リズム・パターンをどのような音色で演奏するか、手拍子や打楽器などの組み合わせを工夫する ・強弱やアクセント、反復する部分など曲全体の構造と表現を考える ・他のグループと作品を交換し、互いに演奏して、意見や感想を伝え合う	観察・聴取 ワークシート 創作作品・発表
	日本語の歌曲を、美しい発音と曲にふさわしい発声で歌おう	日本語で歌おう この道 さびしいカシの木	・日本語の発音の特徴を知り、母音や子音の響きをコントロールする技能を身に付け、日本語の美しい響きに留意して歌う ・歌詞の内容を理解し、楽譜上の用語や記号をもとに、ふさわしい表現を工夫して歌う	観察・聴取 学習プリント 歌唱試験
	音楽って何だろう?	音楽って何だろう? 音楽って何だろう?人間と音楽の多様な関わり 《4分33秒》	・身の回りのさまざまな音を聴いて、自分の考える「音楽」のイメージに当てはまるかどうかを評価する ・音楽の機能や、「音楽とは何か」を考える ・《4分33秒》を体験した後で、「音楽」についてもう一度話し合う	観察・聴取

7	ガムラン音楽の構造とそれを育んできた風土との関わりについて考えてみよう	ジャワ・ガムランについて学ぼう 《ランチャラン・マニヤルセウ》	・ガムランの楽器の名称とそれぞれの役割を理解する ・楽器とリズムの組み合わせや、骨格旋律について理解する ・ジャワ島の自然と音楽との関わりについて考える	観察・聴取 ワークシート
9	カンタータ《土の歌》の詩や曲全体の意味を理解し、〈大地讃頌〉の合唱表現に生かそう	大地讃頌 混声合唱とオーケストラのためのカンタータ 《土の歌》	・詩の内容を理解したうえで、各楽章の関連や位置付けを理解する ・〈大地讃頌〉に込められた思いを考える ・オーケストラ編成とピアノ伴奏版の〈大地讃頌〉の表現の違いを理解し、ふさわしい合唱表現を工夫する	観察・聴取 ワークシート
	声楽の歴史と魅力を知ろう	オルガヌム《生誕のアレルヤ》 《教皇マルチェルスのみサ曲》 《麗しのアマリッリ》	・西洋音楽史の流れを理解し、各時代の声楽作品の特徴や魅力を感じる ・教科書に掲載されている譜例を歌う	観察・聴取 ワークシート
10	イタリア語の発音の特徴を捉え、イタリア語の歌を歌おう	イタリア語で歌おう Santa Lucia Bella ciao Caro mio ben	・イタリア語の発音の特徴を理解する ・イタリア語の言葉のアクセントやリズムと旋律との関係を理解する ・歌詞の内容を理解し、表現を工夫して歌う	観察・聴取 学習プリント
	イタリア・オペラの鑑賞を通して、オペラ歌手の表現に富んだ歌い方に挑戦しよう	《椿姫》 《トゥーランドット》 Nessun dorma	・《椿姫》と《トゥーランドット》のあらすじを理解する ・アリアの歌い方や表現のダイナミックさを感じ、特徴を理解する ・アリアの歌詞の内容と曲の雰囲気合う表現を工夫して歌う	観察・聴取 ワークシート
	2人の作曲家による《Heidenröslein》を、それぞれの雰囲気を生かして歌おう	ドイツ語で歌おう Heidenröslein(シュェーベルト) Heidenröslein(ヴェルナー)	・ドイツ語の発音を学び、ゲーテの詩『Heidenröslein』を朗読して内容を理解する ・ドイツ語の言葉のアクセントと音楽の拍との関わりを理解する ・歌詞の内容や曲のもつ雰囲気の違いを理解し、表現を工夫して2つの《Heidenröslein》を歌う	観察・聴取 学習プリント

	箏の唱歌を唱えて、箏の演奏に生かそう	虫づくし さくらさくら 箏曲《六段の調》から〈初段〉	・箏の構造や奏法、縦譜の読み方を学ぶ ・《六段の調》の唱歌を学び、旋律の流れを理解する ・唱歌と箏の奏法を理解し、唱歌を歌いながら演奏する ・余韻の変化や間を理解し、表現を工夫して演奏する	観察・聴取 学習プリント 器楽試験
11	日本各地の民俗芸能を見たり聴いたりして、その特徴を感じ取り、自分の住んでいる地域の民俗芸能を調べよう	日本各地の民俗芸能 日本の音階 民謡のリズム様式	・日本各地の民俗芸能を見たり聴いたりして、開催時期や場所、由来などを知る ・個々の民俗芸能で用いられている衣装、踊り、楽器、音階、リズム様式を学ぶ ・自分の住んでいる地域の民俗芸能を、上記の視点から調べる	観察・聴取 ワークシート
	物語と音楽との関わりを理解して、《魔法使いの弟子》で作曲者が工夫したことを探求しよう	交響詩《魔法使いの弟子》	・ゲーテの物語詩『魔法使いの弟子』のあらすじを読み、情景を思い浮かべながら曲を鑑賞する ・登場する水、ほうき、魔法使いの弟子、呪文などがどのように音楽で表現されているか考えて話し合う	観察・聴取 ワークシート
	和音進行の規則を理解して、曲をつくろう	音楽って何だろう？和音の進行って何？ 和音進行を考えよう 和音と旋律でピアノ曲をつくろう つくったピアノ曲をアレンジしよう	・和音の機能とその進行を理解する ・8小節の和音進行をつくる ・各和音の構成音を主に用いてピアノ曲をつくる ・速度や強弱、アーティキュレーションを考える ・つくったピアノ曲をアレンジする	観察・聴取 ワークシート 創作作品・発表
能の特徴や魅力を感じ取ろう	能の音楽に親しもう 能《安宅》《高砂》《井筒》 《羽衣》	・「呂中干」の唱歌をまねて唄い、その特徴を感じ取る ・《安宅》《高砂》《井筒》《羽衣》のあらすじを読み、呂中干の部分を鑑賞する ・《高砂》から「ツヨ吟」の謡、《羽衣》から「ヨワ吟」の謡をそれぞれ聴いたりまねて謡ったりして、「ツヨ吟」と「ヨワ吟」の謡い方の特徴を学ぶ	観察・聴取 ワークシート	

12	ベートーヴェンの《交響曲第9番》第4楽章を聴き、曲に込められた思いを感じ取ろう	《交響曲第9番》第4楽章	・曲の構成や歌詞の内容を理解する ・オーケストラ、独唱、四重唱、合唱による壮大な音楽を鑑賞する ・この曲に込められたベートーヴェンの思いについて考えて話し合う	観察・聴取 学習プリント
1	《ウエスト・サイド物語》の背景を理解しながら鑑賞し、〈America〉の器楽合奏を楽しもう	ミュージカル《ウエスト・サイド物語》 America	・社会背景を理解してミュージカル《ウエスト・サイド物語》の登場人物の心情を感じ取る ・〈America〉を創意工夫して器楽合奏する	観察・聴取 学習プリント
2	歌詞に込められた主張を受け止めて歌おう	Blowin' in the Wind Imagine ポピュラー音楽 音楽をつくる人、使う人、伝える人、楽しむ人(著作権)	・ポピュラー音楽の歴史やジャンルを理解する ・英語詞の内容を、その背景を含めて理解する ・歌詞の内容にふさわしい表現を工夫して歌う ・芸術活動を支える著作権について理解する	観察・聴取 学習プリント 歌唱試験
	舞楽《陵王》の追吹の唱歌を唱えたり、神楽歌〈其駒〉を歌ったりして雅楽に親しもう	雅楽に親しもう 舞楽《陵王》 神楽歌〈其駒〉	・舞楽《陵王》の追吹の唱歌をまねて唱え、その特徴を感じ取る ・竜笛の唱歌を覚え、ソプラノ・リコーダーなどで輪奏する ・神楽歌〈其駒〉の歌をまねて歌う	観察・聴取 ワークシート
3	ミニマル・ミュージックを演奏しよう、つくってみよう	In どっどど オノマトペを素材にミニマル・ミュージックをつくろう 音楽って何だろう？宮沢賢治と音楽	・《In どっどど》の各リズム・パターンをオノマトペ、楽器、手拍子などで演奏する ・互いの演奏をよく聴き合い、自分のリズム・パターンとの重なり方やリズム・パターンの反復、変化を感じ取りながら即興で演奏する ・《In どっどど》を参考に、リズム・パターンをつくる ・つくったリズム・パターンをもとにして、グループごと、もしくは全員で演奏する	観察・聴取 ワークシート 創作作品・発表

5 課題・提出物など

表現領域では、さまざまな実技課題が出されます。個々のレベルに合わせて習熟できるよう時間を設定していますので、目標の達成に向けて進んで課題に取り組みましょう。

鑑賞領域では、学習内容が定期考査で出題されます。教科書や学習プリントを活用してください。

6 評価規準・評価方法

評価は下の3つの観点から行います。

(国立教育政策研究所のホームページより抜粋 https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r030820_hig_ongaku.pdf)

A 表現(歌唱、器楽、創作)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・(事項イの(ア)、(イ)、(ウ))について理解している。(※創作分野の場合は、事項イの文末を「～している」に変更する。) 【知識】 ・創意工夫を生かした歌唱表現(※器楽分野の場合は「器楽表現」、創作分野の場合は「創作表現」)をするために必要な、(事項ウの(ア)、(イ)、(ウ))を身に付けている。【技能】 	<p>音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもって歌唱(※器楽分野の場合は「器楽」、創作分野の場合は「創作」)表現を創意工夫している。</p>	<p>主体的・協働的に歌唱(※器楽分野の場合は「器楽」、創作分野の場合は「創作」)の学習活動に取り組もうとしている。</p>

B 鑑賞

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・(事項イの(ア)、(イ)、(ウ))について理解している。【知識】 (「技能」に関する評価規準は設定しない。) 	<p>音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、(事項アの(ア)、(イ)、(ウ))について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。</p>	<p>主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

評価は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点からなる評価、歌唱や器楽における試験、課題や学習プリントなどの記入状況、創作作品、必要に応じて実施する定期考査などをもとに総合的に判断して決定します。